

<福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ>
(12月29日 午後3時現在)

平成23年12月29日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約4.3m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約2m³/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- ・ 11月30日午後4時4分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。
- ・ 12月19日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約1.8m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約7m³/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時、原子炉格納容器ガス管理システムの本格運用を開始しました。
- ・ 12月1日午前10時46分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約3.1m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約6m³/時です。
- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。

12月29日午前10時23分、同装置において、一次系循環ポンプの吸込圧力が低下傾向にあることから、一次系循環ポンプの入口側ストレーナのフラッシングを行うため、同ポンプを停止し、使用済燃料プールの冷却を一時停止。(停止時 プール水温度：約12.4℃) しました。その後、フラッシングを実施し、同ポンプの吸込圧力が回復したことから、同日午後0時9分、同ポンプを再起動し、使用済燃料プールの冷却を再開(再開時 プール水温度：約12.5℃) しました。

- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 11月30日午後4時26分、原子炉压力容器へ窒素封入操作を開始しました。

4号機(定期検査で停止中)

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 11月29日午前10時58分、4号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機(定期検査で停止中)

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系(B系)ポンプによる残留熱除去系(B系)の運転を開始しました。
- ・ 補機冷却海水系ポンプ(B)の復旧作業が完了したため、12月22日午前10時11分、試運転を開始し、同日午前11時25分、異常がないことを確認したため、本格運用を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機(定期検査で停止中)

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを経由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・ 12月13日午後0時25分、淡水化装置(逆浸透膜式)において、淡水化装置(逆浸透膜式)処理後の濃縮水発生量の抑制を目的とした、再循環運転による運用を開始しました。
- ・ 12月22日より、1号機原子炉格納容器雰囲気温度の1点で温度計指示値の上昇が見られ(12

月 22 日時点：約 38℃、12 月 27 日午後 7 時時点：約 49℃)、他の原子炉格納容器雰囲気温度の指示値に上昇は見られていないことから、12 月 28 日午前 9 時から午前 10 時にかけて、計器の健全性等の確認を実施し、問題がないことを確認しました。今後、12 月 22 日以前の窒素封入量およびガス管理システムからの排気量に調整し、様子を見ることで原因の絞込みを実施するため、同日午前 11 時から午後 0 時 15 分、窒素封入量を約 8 Nm³/時から約 18 Nm³/時へ、ガス管理システムからの排気量を約 23 Nm³/時から約 30 Nm³/時へ、それぞれ調整しました。温度上昇については最高約 54.6℃ (12 月 28 日午後 6 時時点) まで上昇しておりましたが、約 52.3℃まで下降 (12 月 29 日 10 時時点および同日午後 1 時時点) しております。

なお、他の 2 点についても緩やかな温度上昇が確認されたが、現在は安定傾向を示しております。

2 点目…12 月 28 日午後 9 時：約 34.9℃ (最高値)、12 月 29 日午後 1 時：約 34.8℃

3 点目…12 月 29 日午前 1 時：約 39.2℃ (最高値)、12 月 29 日午後 1 時：約 39.2℃

今後も継続して温度上昇の原因調査とプラント状況の確認を行う予定です。

- 12 月 28 日午後 3 時 22 分、2 号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設 (雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋] およびプロセス主建屋) へ溜まり水の移送を開始しました。
- 12 月 29 日午前 10 時 12 分、定例パトロール中の当社社員が、淡水化装置 (逆浸透膜型) 濃縮水貯蔵エリア付近のホースに微小な穴があいており、水が漏えいしていることを確認しました。当該ホースは、ろ過水タンクから蒸発濃縮装置のボイラー設備の受けタンクへろ過水 (淡水) *を移送するホースであり、漏えいした水は淡水であることを確認しましたが、念のため、漏えいした水の核種分析 (ガンマ線核種) を行ったところ、検出限界値未満であることを確認しました。その後、ろ過水 (淡水) 移送を停止し、テープにより漏えい箇所の止水処置を行いました。現在、ろ過水 (淡水) の漏えいはにじみ程度であり、今後、ホースの交換を実施する予定です。なお、漏えいが発生している周辺には側溝などはなく、漏れたろ過水 (淡水) が周辺へ拡大することはありません。

*ろ過水 (淡水) : 坂下ダムを水源とした水

以 上

※12 月 29 日午前 10 時現在のプラント状況等のお知らせの「2 号機」の項目において、<ガス管理システムの気体のサンプリング実施の分析結果>の Xe-135 が検出限界値について「(1.0×10⁻¹Bq/cm³) 未満」と記載しておりましたが、正しくは「(1.1×10⁻¹Bq/cm³) 未満」です。訂正させていただきます。